

小論文

<解答例>

論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。下記の出題趣旨の説明をもってこれに代えます。

<出題趣旨>

第1回

- 問1 問題文における筆者の主張を理解し、適切に要約する能力を確認するもの。
- 問2 問題文の内容を理解したうえで、日本で兼業や副業による起業を促すうえでの課題や克服策について、自身の知識や経験を活用して独自の意見を組み立て、それを論理的に説明する能力を確認するもの。
- 問3 問題文の内容を理解したうえで、日本における「啓発的な意味での広義の起業教育」施策について、自身の知識や経験を活用して独自の施策を具体的に組み立て、それを論理的に説明する能力を確認するもの。

第2回

MBA課程ではおびただしい量の論文や書物を読み、まずその大意を掴むことが求められる。その後精査と考察という作業を繰り返す。本出題においては、大意を掴むこと、そしてそれを自分ごとにして考え、問いに対して自分なりの考えを論理的に示すことを重視する。

コロナ禍の経験と働き方改革により、リモートワークが劇的に広がった。しかしながら、昨今ではその弊害も露呈している。企業が新しい働き方をどのように構築するのか。質問にそって、自分の経験を交えて論述できているかどうかを採点のポイントとしている。

第3回

- 問1 与件文における筆者の主張を適切に理解し、その要点を構造化し整理する能力を確認するもの。
- 問2 下線部(1)の意味するところを前後の文脈から理解し、自身の知識や経験を活用して独自の主張を組み立てる能力を確認するもの。

問3 下線部(2)の意味するところを前後の文脈から理解し、自身の知識や経験を活用して目指すべき状態に対して課題を抽出し、施策を組み立てる能力を確認するもの。

問4 下線部(3)の、日本におけるサプライチェーン全体の取引関係の適正化が意味するところを理解し、それを進めるための独自の施策について自身の知識や経験を活用して具体的に組み立て、それを論理的に説明する能力を確認するもの。

第4回

MB Aにおける意思決定は、必ずしも唯一の正解が存在する問題ばかりではない。加えて、現実の経営課題においては、相対立する主張がいずれも一定の合理性を持つ場合が少なくない。

本問は、そのような状況を想定し、受験者がいずれか一方の立場を主体的に選択し、その理由を論理的に構成できる能力を測ることを目的とする。

あわせて、対立する立場の論点を正確に理解し、自らの主張との関係を整理しながら説得的に論述できる力を評価する。

以上